

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2094000136		
法人名	株式会社 北アルプスの風		
事業所名	ほっとハウス・ほたかの家		
所在地	長野県安曇野市穂高柏原 2831-26		
自己評価作成日	平成28年11月29日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成28年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほっとハウスの基本理念として「おひさま暮らし」がある。私たちは「おひさま」のような温かいホーム、「我がまま(自分らしく)でいい」暮らしの実現を目指している。私たち職員は挨拶や声掛けから始まるケア技術・知識・心の質の向上のために、日夜研鑽を惜しまない。また、ご利用者の三のP、Pride(プライド)Private(プライベート)Personality(パーソナリティ)に配慮し、施設側・職員のベース優先ではなく、利用者本位の介護を心掛けている。私たちは、笑顔の絶えない真心が通い合う日々と、ご家族や地域とつながって行けるホームを築いて行くために、ほたかの家で一緒に暮らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に立っており、開放感のあるところである。開所より5年余りが経過する中ほとんどの職員の異動が無く、利用者一人ひとりへの深い理解と統一したケア(おひさま 3P)が日々、継続され、認知症利用者にとっては、この上ない環境で過ごせている。また、職員の看取りの経験についての話から心の質の高さも感じられた。医療との連携も取れており、安心して生活できるホームとなっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(れんげ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「ほっとハウスのおひさまの暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている。また、全体会議、内部研修、個人面談等の際に理念に付いて確認している。	基本理念がしっかり、共有できており、真心と笑顔を常に大切にし年の初めや、会議時等常に、確認し合える場を設けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年に数回の行事を通しては、保育園児、民生委員、ボランティアの方々と交流したり、福祉学校の生徒、中学生の職場体験学習も受け入れ利用者と楽しんでいる。また、地域の祭りに参加したり当施設の夏祭りに大勢参加されている。	地域の行事や、施設の行事に互いに参加し合い、地域の風を入れ、地域に根差した施設を目指している。ボランティアとの交流も多く、野菜等、頂き物も多々ある等信頼関係が築かれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ミニ講座」を開く事や地域の方とのつながりを大切にして、見学者、行事ボランティア等の際、認知症の理解、悩みや支援方法の話をしている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し行政・区長・民生委員・利用者の代表家族が参加されて、施設の現状と、ご利用者の状況を説明させて頂いてる。参加者の皆さんからご意見・ご要望・アドバイスを頂き、スタッフのサービス向上に努めている。	行政・区長・民生委員・利用者の代表家族が参加し、定期的開催され、利用者と一緒に行事に参加し利用者や触れ合いながら、事業所の様子を肌で感じて頂けるよう考慮している。その中で出た意見を大切に受け止め、ケアの参考にしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、介護認定調査等、行政の方が来所した際に事業所の日頃の様子を見て頂いたりして、情報交換をしている。	日々様子を常に報告し、制度的なアドバイスや、記録の取り方等、具体的な情報のやり取りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や勉強会を行い意識の共有化を図っている。身体拘束や言葉の拘束等を含め日々お互いに注意し合っている。玄関の施錠はしない事を常とし、やむ得ない場合は、スタッフの連携の中で開放に努めている。	研修等により、身体拘束に付いての理解を深め(言葉の拘束に付いても意識されている)実践に活かしている。やむを得ない場合には、家族の同意を得る等を行い、危険の無い限り、出来るだけ拘束の無い取り組みをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に付いては、全体会議でも勉強会を設けて意識を深め防止意識を高めている。実施例として、入浴時等、外傷が無いかチェックし報告、原因究明に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に付いては、行政機関の行なう説明会に参加し、理解を深めている。また、制度を利用している方もいらっしゃる為、制度を理解して利用者が困らない様に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には「利用するための契約」「身体拘束」等、契約書類を分けてわかり易く説明できる様に配慮し、時間をかけて説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や各種行事の内容を盛り込んだ「ユニットたより」を毎月1回発行し配布している。ご家族の面会時や家族会、クリスマス会の際に内容に付いての評価、意見、要望をうかがいます、それを全体会議でも反映させています。	事業所の活動に付いて利用者一人ひとりにレポートを当てたお便りを発行し、利用者、家族等が意見要望を言いやすい環境作りに力を入れている。また、面会時にも直接意見等を聞くようにし、会議等で取り上げ、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	平成28年4月より人事考課を導入し、職員は年2回の自己評価をし、面談を行っている。個別面談、全体会議、ユニット会議等で意見が反映できる環境となっている。	人事考課の導入により、職員の意識も高められ、丁寧な個別面談、会議等で職員が意見を言い、運営に反映させている。また、日々管理者が、職員の話聞く機会を持つよう努力している姿がうかがえた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方も取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている、研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるような働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社別グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修等で他事業所の方との意見交換をできるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人との面接を行い様子や性格等の把握に努め入所後1ヶ月程は特に配慮をし様子を見守りながら関係性を構築し、気持ちを引き出せるように努め、情報の共有化を図り、安全・安心感につなげている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも、今まで家庭ではどのような生活をされていたかをうかがい、グループホームでの生活と、違いをご理解頂き、家のような生活を継続出来るように、本人や家族の不安や要望に添える関係作りを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に現状を充分におうかがいして、当ホームの説明と他の施設の違いを理解して頂き、状況により他の施設を紹介することも考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔を絶やさず、利用者主体で「おひさまな暮らし」を合言葉とし寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係に努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「おたより」に利用者の日常の出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。行事に参加して頂けるように声掛けにも心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に立ち寄ったり、一人ひとりの大切な人とのつながりや思い出が途切れないように支援している。家族や友人の面会は何時でも来て頂ける様に開放している。	家人の協力を得ながら、馴染みの蕎麦屋やカラオケに出かけたりし、また、外出時には自宅付近を通ったり、受診時について馴染みの場所に寄ってみる等できるだけ馴染みの関係が切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者仲間に合わせた席を考えています。穏やかな交流が出来るように、雰囲気作りに努めてコミュニケーションが図れる関係を支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・事業所へ入所された場合でも家族にお会いする機会があれば失礼の無いように様子をうかがったり、その後も相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室や入浴時など日常の会話の中で、ここでの生活の要望、意向や希望を丁寧に聞いて、意向に沿える様になっている。情報をカンファレンスにつなげている。	日々の会話の中から、本人の意向を確認し、実際に買い物に行ったり、理髪に連れて行く等行っている。意向の把握が困難な利用者に対しては、話の切り口を見付け、日々模索し、手探りで意向を確認しようと努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の意向を大切に特に家族にも生活歴・サービス利用歴等を聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、スタッフ同士の引き継ぎを大切にして現状の把握に努めている。毎月実施している、ケース検討会で情報を持ち寄りスタッフで共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットリーダーとスタッフは、利用者の日常の様子把握に努めて、ユニット会議で評価を行い介護計画の見直し改善を図っている。本人・家族の意見がプランに反映できているかを、面会時にうかがい同意を得ている。	利用者一人ひとりに担当が決まっており、月1回の全体会にて日々様子を確認し合い、評価し、3カ月～6カ月に1度プランの見直しを行っている。特に個別プランに力を入れ、お化粧品、縫物、折り紙等、具体的なプランの実現にチームで取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランの実施記録には、日々の気づきを書き入れスタッフ間で情報を共有し介護計画に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時等には、本人を交えて思いをうかがいし、希望等を取り入れる様、取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の区長・民生委員の方々の協力を得て地区公民館活動に参加し安全・安心な暮らしに協力を頂いている。保育園児との交流、地域の方からの野菜のお裾分け等地域と利用者との関係作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は入所時に、本人・家族に選択して頂き、適切な医療を受けられるように家族にも協力をお願いしている。また、職員も情報を共有して、受診後の様子をしっかりとかがいし必要に応じた対応をしている。</p>	<p>本人やご家族が希望するかかりつけ医となっており、受診に付いても基本は家族だが、遠方等の理由で事業所が付き添い情報を家族と共有できるよう密な連絡を取っている。また、協力医の往診、週1の看護師の常駐がある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医師の往診(月に1回)と毎週水曜日に看護師が勤務をしているので、その時には利用者の様子をお伝えして、変化のある時には、電話等で相談し対応方法を教わりながら必要に応じた介護をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>管理者やスタッフが面会に行ったり、ご家族に状況をうかがしたり、医療機関に電話をし情報交換をして利用者が困らない関係作りが出来るように支援している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りの指針に付いて、説明をして同意を得ている。 利用者の状況に応じて、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を理解、納得して頂き看取りに取り組んでいる。</p>	<p>重度化に伴う看取りの指針に付いて同意を得ており、刻々と変化する利用者に対し、主治医、本人、家族、事業所が連携を取り、ケアの統一、緊急時の対応等、事業所ができる事を確認し合いながら、納得のできる看取りケアに取り組んでいる。また、看取りに付いての研修も丁寧に行われ実践に役立てている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応に付いて盛り込み勉強会を行っている。利用者の予想される急変に付いては、スタッフの中で情報を共有している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。今年は消防署員による初期消火、消火器の使用方法、119番通報に付いて指導、講習を受けている。防火管理者やスタッフが地域の防災訓練に参加して協力体制を築いている。</p>	<p>地域の方々に参加を依頼し、年2回、昼夜想定で避難訓練が行われている。地域の方々に、避難してきた利用者を外で見守る等の具体的な役割を依頼している。また、地域の方々の避難場所としても提供できることを伝えている。災害時に備え、水や食品等も備蓄している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であることを忘れずに明るく和気あいあいとした生活の中でも尊厳を大切に、一人ひとりの表情や目を見ながら丁寧に接する事に心掛けています。 排泄、入浴の時等プライバシーを損ねない様、言葉かけに配慮している。	利用者の生活の中に職員が自然と溶け込みながらも、利用者一人ひとりに対し、言葉では表せない心の言葉を汲み取り、その人らしさ、その人の尊厳を大切に、笑顔で接している。また、排泄、入浴等、羞恥心を感じさせないさりげない言葉かけを心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや会話を大切にし本人の意向をうかがいながら希望があれば無理のない範囲で対応する。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体調や様子をうかがい、見守り、日々を穏やかに安心して過ごして頂ける様に支援をしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等は自分で選んで頂くようお願いし本人の意向を大切に、いつも清潔でいる事を支援している。2ヶ月事の訪問理美容ではマニキュア等も楽しんでいる。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には出来るだけ利用者の希望を反映する様にしている。 利用者の力量に合わせて食事の準備や片付けを手伝って頂いている。自発的に手伝ってくださる方も多く職員と一緒に楽しんでいる。	利用者の希望のメニューは、テレビ観賞中や、会話の中から引き出し、献立に入れたり、誕生日には、好きなものを提供する等工夫している。食事の準備、片付け等も職員と一緒に行われていた。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望や状態に合わせて、食事の際に摂取量、水分量の確認をして、必要に応じてチェック表に記入をし、経過観察をし食事形態や盛り付けにも工夫をしたり配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後声掛け誘導し、口腔ケアに付き添い、見守りながら実施して頂いている。なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンを把握する様に支援をしている。「出来るだけトイレの排泄」を目標としてタイミングを見て声掛けしている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを見つけ、出来るだけ失敗しないよう支援している。また、夜間は、移動の危険等考慮し、ポータブルトイレを使用する方もいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表を使用し、便秘予防に食材の工夫をして牛乳、ヨーグルトを取り入れたりして、適度な運動歩行訓練を心掛け、必要に応じて医師に相談して下剤服用等で調整している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者の希望を確認しながら、一週間に最低2回以上は入浴出来るようにし、健康状態や精神的な面も見極めて入浴支援をしている。</p>	<p>利用者の希望を聞きながら、概ね午後の入浴を週2回程度提供している。拒否の強い方に対しては、声かけを統一し入っていただけるよう促している。また、季節事にゆず湯、菖蒲湯等を取り入れ、季節を感じられる工夫もしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夕食後の就寝時間は、自由で一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる。一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の整理をする様に支援をしている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>お薬係りを主に、スタッフが薬の変更や服薬に付いて情報を共有化し理解する為に、申し送りノートを活用したり誤薬の無い様に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を通して食器拭きや洗濯物をたたむなど、それぞれの役割を持って生活出来る様に支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に合わせ外食、ドライブ、季節のお花見等を、楽しみに出掛けています。(外食のラーメンは好評でした。) ご家族と利用者との外出も出来る様に面会時に働きかけて行って頂いている。	季節事の外出(お花見、あやめ祭り、外食等)を楽しまれ、また、家族の協力を得ながら外出支援も行われている。	日々の食材を買いに行く等、日常的に気軽に行ける外出を、家族や、地域のボランティアの協力を得ながら実現する事を期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いとして、持って来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かり、本人・家族の希望で使える様に支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者もおり家族へ電話したいという希望があれば自由に電話が出来る様にしている。年末には年賀状を職員と一緒に書いて頂くよう勧めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気のよい日には、デッキに出て外気欲をしたり、余暇活動で作った作品をホールの壁を中心に飾ったり、季節に合った装飾を行っている、空調関係はご利用者に合わせて、部屋の温度や明るさ等に気を配っている。	落ち着いた雰囲気の中、季節の飾りが、壁に飾られ、大きな窓からは、日の光が入り、明るい空間になっていた。ウッドデッキでは、プランターで、ミニトマトや、きゅうりが栽培され、その成長も楽しめるようになっている。キッチンの様子も良く見え、音や香りも楽しめる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室では、ひとりになれる空間を提供して、ホールでは馴染みの関係が出来る様に、食事の席の配慮をしたりと、思いをうかがいして楽しい雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前の生活の継続性を大切に、馴染みのある家具・写真・置物・ぬいぐるみ等を持ち込み自由に配置して頂いている。	居室には、家族の写真や利用者本人の作品が飾られ、使い慣れた家具等あり、安心して生活できる空間になっていた。収納スペースもしっかりあり、すっきりと整頓されていた。また、窓の外も広々として、開放感のある景色が広がっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースにはなるべく障害物になる物は置かないようにして、自室の入り口には本人の書いた絵・写真で分かり易い工夫をし、トイレ、浴室は大きな文字で明記している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>基本理念「ほっとハウスのおひさまの暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている。また、全体会議、内部研修、個人面談等の際に理念に付いて確認している。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>年に数回の行事を通しては、保育園児、民生委員、ボランティアの方々と交流したり、福祉学校の生徒、中学生の職場体験学習も受け入れ利用者と楽しませている。また、地域の祭りに参加したり当施設の夏祭りに大勢参加されている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>「ミニ講座」を開く事や地域の方とのつながりを大切にして、見学者、行事ボランティア等の際、認知症の理解、悩みや支援方法の話をしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し行政・区長・民生委員・利用者の代表家族が参加されて、施設の現状と、ご利用者の状況を説明させて頂いてる。参加者の皆さんからご意見・ご要望・アドバイスを頂き、スタッフのサービス向上に努めている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議、介護認定調査等、行政の方が来所した際に事業所の日頃の様子を見て頂いたりして、情報交換をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修や勉強会を行い意識の共有化を図っている。身体拘束や言葉の拘束等を含め日々お互いに注意し合っている。玄関の施錠はしない事を常とし、やむ得ない場合は、スタッフの連携の中で開放に努めている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止関連法に付いては、全体会議でも勉強会を設けて意識を深め防止意識を高めている。実施例として、入浴時等、外傷が無いかチェックし報告、原因究明に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度に付いては、行政機関の行なう説明会に参加し、理解を深めている。また、制度を利用している方もいらっしゃる為、制度を理解して利用者が困らない様に努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には「利用するための契約」「身体拘束」等、契約書類を分けてわかり易く説明できる様に配慮し、時間をかけて説明している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や各種行事の内容を盛り込んだ「ユニットたより」を毎月1回発行し配布している。ご家族の面会時や家族会、クリスマス会の際に内容に付いての評価、意見、要望をうかがいます、それを全体会議でも反映させています。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>平成28年4月より人事考課を導入し、職員は年2回の自己評価をし、面談を行っている。個別面談、全体会議、ユニット会議等で意見が反映できる環境となっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方も取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている、研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるような働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社別グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修等で他事業所の方との意見交換をできるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人との面接を行い様子や性格等の把握に努め入所後1ヶ月程は特に配慮をし様子を見守りながら関係性を構築し、気持ちを引き出せるように努め、情報の共有化を図り、安全・安心感につなげている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも、今まで家庭ではどのような生活をされていたかをうかがい、グループホームでの生活と、違いをご理解頂き、家のような生活を継続出来るように、本人や家族の不安や要望に添える関係作りを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に現状を充分におうかがいして、当ホームの説明と他の施設の違いを理解して頂き、状況により他の施設を紹介することも考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔を絶やさず、利用者主体で「おひさまな暮らし」を合言葉とし寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係に努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「おたより」に利用者の日常の出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。行事に参加して頂けるように声掛けにも心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に立ち寄ったり、一人ひとりの大切な人とのつながりや思い出が途切れないように支援している。家族や友人の面会は何時でも来て頂ける様に開放している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者仲間に合わせた席を考えています。穏やかな交流が出来るように、雰囲気作りに努めてコミュニケーションが図れる関係を支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・事業所へ入所された場合でも家族にお会いする機会があれば失礼の無いように様子をうかがったり、その後も相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室や入浴時など日常の会話の中で、ここの生活の要望、意向や希望を丁寧に聞いて、意向に沿える様にしている。情報をカンファレンスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の意向を大切に特に家族にも生活歴・サービス利用歴等を聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、スタッフ同士の引き継ぎを大切にして現状の把握に努めている。毎月実施している、ケース検討会で情報を持ち寄りスタッフで共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットリーダーとスタッフは、利用者の日常の様子の把握に努めて、ユニット会議で評価を行い介護計画の見直し改善を図っている。本人・家族の意見がプランに反映できているかを、面会時にうかがい同意を得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランの実施記録には、日々の気づきを書き入れスタッフ間で情報を共有し介護計画に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時等には、本人を交えて思いをおうかがいし、希望等を取り入れる様、取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の区長・民生委員の方々の協力を得て地区公民館活動に参加し安全・安心な暮らしに協力を頂いている。保育園児との交流、地域の方からの野菜のお裾分け等地域と利用者との関係作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は入所時に、本人・家族に選択して頂き、適切な医療を受けられるように家族にも協力をお願いしている。また、職員も情報を共有して、受診後の様子をしっかりとおうかがいして必要に応じた対応をしている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医師の往診(月に1回)と毎週水曜日に看護師が勤務をしているので、その時には利用者の様子をお伝えして、変化のある時には、電話等で相談し対応方法を教わりながら必要に応じた介護をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>管理者やスタッフが面会に行ったり、ご家族に状況をおうかがしたり、医療機関に電話をし情報交換をして利用者が困らない関係作りが出来るように支援している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りの指針に付いて、説明をして同意を得ている。 利用者の状況に応じて、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を理解、納得して頂き看取りに取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応に付いて盛り込み勉強会を行っている。利用者の予想される急変に付いては、スタッフの中で情報を共有している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。今年は消防署員による初期消火、消火器の使用方法、119番通報に付いて指導、講習を受けている。防火管理者やスタッフが地域の防災訓練に参加して協力体制を築いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であることを忘れずに明るく和気あいあいとした生活の中でも尊厳を大切に、一人ひとりの表情や目を見ながら丁寧に接する事に心掛けています。 排泄、入浴の時等プライバシーを損ねない様、言葉かけに配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや会話を大切にし本人の意向をうかがいながら希望があれば無理のない範囲で対応する。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体調や様子をうかがい、見守り、日々を穏やかに安心して過ごして頂ける様に支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等は自分で選んで頂くようお願いし本人の意向を大切に、いつも清潔でいる事を支援している。2ヶ月事の訪問理美容ではマニキュア等も楽しんでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には出来るだけ利用者の希望を反映する様にしている。 利用者の力量に合わせて食事の準備や片付けを手伝って頂いている。自発的に手伝ってくださる方も多く職員と一緒に楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望や状態に合わせて、食事の際に摂取量、水分量の確認をして、必要に応じてチェック表に記入をし、経過観察をし食事形態や盛り付けにも工夫をしたり配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後声掛け誘導し、口腔ケアに付き添い、見守りながら実施して頂いている。なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンを把握する様に支援をしている。「出来るだけトイレの排泄」を目標としてタイミングを見て声掛けしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表を使用し、便秘予防に食材の工夫をして牛乳、ヨーグルトを取り入れたりして、適度な運動歩行訓練を心掛け、必要に応じて医師に相談して下剤服用等で調整している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者の希望を確認しながら、一週間に最低2回以上は入浴出来るようにし、健康状態や精神的な面も見極めて入浴支援をしている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夕食後の就寝時間は、自由で一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる。一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の整理をする様に支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬係りを主に、スタッフが薬の変更や服薬に付いて情報を共有化し理解する為に、申し送りノートを活用したり誤薬の無い様に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を通して食器拭きや洗濯物をたたむなど、それぞれの役割を持って生活出来る様に支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に合わせて外食、ドライブ、季節のお花見等を、楽しみに出掛けています。(外食のラーメンは好評でした。) ご家族と利用者との外出も出来る様に面会時に働きかけて行って頂いている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いとして、持って来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かり、本人・家族の希望で使える様に支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者もおり家族へ電話したいという希望があれば自由に電話が出来る様にしている。年末には年賀状を職員と一緒に書いて頂くよう勧めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気のよい日には、デッキに出て外気欲をしたり、余暇活動で作った作品をホールの壁を中心に飾ったり、季節に合った装飾を行っている、空調関係はご利用者に合わせて、部屋の温度や明るさ等に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室では、ひとりになれる空間を提供して、ホールでは馴染みの関係が出来る様に、食事の席の配慮をしたりと、思いをおうかがいして楽しい雰囲気作りをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前の生活の継続性を大切に、馴染みのある家具・写真・置物・ぬいぐるみ等を持ち込み自由に配置して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースにはなるべく障害物になる物は置かないようにして、自室の入り口には本人の書いた絵・写真で分かり易い工夫をし、トイレ、浴室は大きな文字で明記している。		

目標達成計画

作成日:平成29年3月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	利用者の要望に合わせ、気楽に買物を兼ねた外出支援をより多くしていく必要がある。	季節の外出時に合わせて地域の方の協力体制が得られようにつなげることができる。	(1)早めに日程を決めて運営推進委員会でボランティアさんの依頼をする。 (2)運営推進委員会などで地域の皆さんとの関係作りについて話し合いを深めていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。